


Information magazine "NINUFABUSHI"



ニヌファブシ

vol. 11
2008.6

首里城下町クリニック ・那覇西クリニック・那覇西クリニックまかび
共同発行情報誌

はじめに

皆様こんにちは。6月となり梅雨の季節もそろそろ終わりはじめるころでしょうか？
これからがよいよ夏本番ですね。

本誌は首里城下町クリニック(旧 田名内科クリニック)・那覇西クリニック・那覇西クリニックまかびが共同で作成している広報誌「ニヌファブシ」の第11号です。「ニヌファブシ」とは沖縄の方言で北極星の意味です。民謡「ていんさくの花」にも歌われているように、灯りのない昔、人々は北極星を道しるべにしていました。そんな北極星のように地域に根ざし、皆様から慕われるようなクリニックでありたいという思いをこめて毎号お届けしています。みなさんの温かい声に支えられながら発刊から5年が過ぎました。ますます充実した内容を発信し、長く愛される広報誌でありたいと思っております。

那覇西クリニックトピックス

開院12周年パーティー

今年も那覇西クリニック開院12周年パーティーが5月17日にハーバービューホテルクラウンプラザで開催されました。職員同士や日ごろお世話になっている方々と、ビールやおいしい食事を前に話も弾み、皆の笑顔があふれるパーティーとなりました。



ビールを前にポーズ



楽しい夜になりました



10年勤続功労者の表彰



期待の新任ドクター上原 協先生

病院レク「春の大ボーリング大会」

今年も春の大ボーリング大会が4月12日に行われました。ゲームが始まるとあちらこちらから拍手や歓声、笑い声が飛びあい、ボールが思い通りにいかない人や、絶好調の人、皆さんそれぞれでした。チーム戦も賭かっているので応援にも熱が入りかなりの盛り上がりでした。

その後はお疲れ様会を兼ねた食事会があり、職員同志の交流が更に深まり楽しい時間を過ごすことができました。



子供達も一緒に楽しいね♪



チーム照喜名「がんばるぞ!」



やったね! チーム優勝だ!

乳がん市民公開講座・懇親会

去る3月22日に琉球新報ホールにて乳がん市民公開講座があり、「女性として、母として乳がんを考える～あたり前の生活のために～」と題して札幌ことに乳腺クリニック理事長浅石和昭先生と、「自分でもできるリンパ浮腫のケア」について豊見城中央病院血管外科 松原忍先生を招いて特別講演を行いました。

参加された皆さんはメモをとるなど熱心に聞き入っているようでした。

懇親会では軽食を囲み、患者さんと先生や職員、また患者さん同志の交流が持て楽しい一時を過ごすことができました。



ピンクリボン沖縄2008 平成20年10月19日(日)13時～ 県民広場、パレットくもじ前広場、国際通りにて



ピンクリボンとは、乳がんの早期発見・早期治療への思いを込めた、世界共通のシンボルマークです。アメリカの乳がん家族を亡くした遺族が、この悲劇を繰返さないようにと願いを込めて結んだピンク色のリボンが始まりといわれています。

日本人女性の約23人に1人が乳がんを発症すると言われており、乳がんの死亡率低減には早期発見がなによりも大切なことは周知の事実です。しかしながら、乳癌検診受診率は未だ20%以下であり、とても低い現状です。

そこで、沖縄乳腺疾患懇話会の発案で、沖縄県の乳癌死亡率ゼロを目指して、乳癌検診受診率向上の啓発を行う「ピンクリボン運動」を始める事となりました。現在、玉城理事長を実行委員として各施設の先生方が協力しあって準備に取り組んでいます。

是非、みなさんも一緒に参加してください。詳細は開催時期前に当院へお問い合わせください。

どろもよろしく！
新しいメンバーが
仲間入りしました♡



医師 上原 協
4月より勤務しています外科の「うえはら かのう」です。乳腺診療を中心に沖縄の地域医療に貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願いたします。



臨床検査技師 親川 美香
3月より那覇西クリニックで働かせていただいています。慣れないことでご迷惑をおかけすると思いますが、早く慣れるように頑張りますのでよろしくお願いたします。



病棟看護師 嘉数 亜希子
今年の4月より病棟にて勤務しています。仕事に慣れるまで皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導よろしくお願いたします。患者様が安心して療養できるような看護を心がけています。笑顔を忘れずに頑張ります。



病棟看護師 仲村 渠 英理
1月から病棟で勤務しています。わからない事も多くありますが、明るくて優しい先輩方の指導のもと一生懸命頑張っています。どうぞよろしくお願いたします。



まかび 看護助手 奥平 洋子
今年から勤めて4ヶ月が過ぎました。初めての事が多く、周りのスタッフに支えられています。ご迷惑をかけると思いますがこれからもご指導よろしくお願いたします。



「年が寄ってきた」

那覇西クリニック
理事長 玉城 信光



年が寄ってきた。気持ちの中では年を取らないのに年が確実に私にすり寄ってくる。今年還暦になってしまった。60才になってもまだ仕事のピークがみえない。毎年、毎年忙しくなるばかりである。

しかし、すこし手を抜いてきてもいる。仕事を他の人に譲りつつある。仕事の量をこなせなくなる前に、同じ仕事のできる人を増やしておかなければいけないと思っている。病院でも医師会の仕事でも次の世代の育成が欠かせない。今年もクリニックに若いドクターが一人増え、合計5名になった。少し楽になることを期待している？

年を感じるのはどこからか？60才の外科医は目から年を感じたのである。10数年前、肝臓の細い胆管に管をいれる手術をしているときに管が見えなかったのである。それまで腹這いで新聞を読んでいる間に背筋が疲れることに気づいてはいた。しかし、まだ大丈夫だろうとしていたが、手術の際に小さなものが見えなくなったとき、ついに老眼鏡を買ったのだ。

しかし手術以外の細かい仕事は眼鏡なしの方がよく見えるのである。ど近眼なので裸眼の方がよく見えるのである。だが裸眼では手術が出来ない。なぜならよく見える距離は10センチくらいなので、手術では返り血を浴びてしまうのだ。

いま眼鏡が4つある。運転や日常生活にいつも使用する眼鏡、外来で診療する眼鏡2つ、手術用の眼鏡である。特に手術用の眼鏡は大変重要である。患者さんの命とガンの見極めがかかっているのだ。

手術の眼鏡が合わなくなってきた。細かいものが見えないのだ。やむを得ず、テレビのドラマで見る様な双眼鏡の様なかっこいい眼鏡を買った。医龍で使用された眼鏡である。ものが2倍に見えるのだが、見える範囲が狭くて大変疲れる。どんどん目が悪くなる。外科もいよいよ廃業かと思い、眼鏡を新調しに出かけた。0.04の視力がさらに悪くなっているのだろうか。検眼すると眼鏡屋さん曰く「視力が回復していますよ」うそでしょう。これまでの59年間視力は悪くなる一方だった。良くなるはずがない。

度を落としたレンズをかけてみると実に良く見えるではないか。老眼とともに視力が回復したのだ。手術用の眼鏡をつくった。うそのように良く見えるではないか。神様はまだしばらく働けとお達しを告げにきたのである。

★みんなの広場★

外来の患者さんからの作品を募集しています。
みなさんもお気軽に作品をお寄せください！

俳句がご趣味の宮城 正さんの作品です。

ビアホール 今宵横目で 義援金
ふとん干し 鳥に汚され 妻おこる

